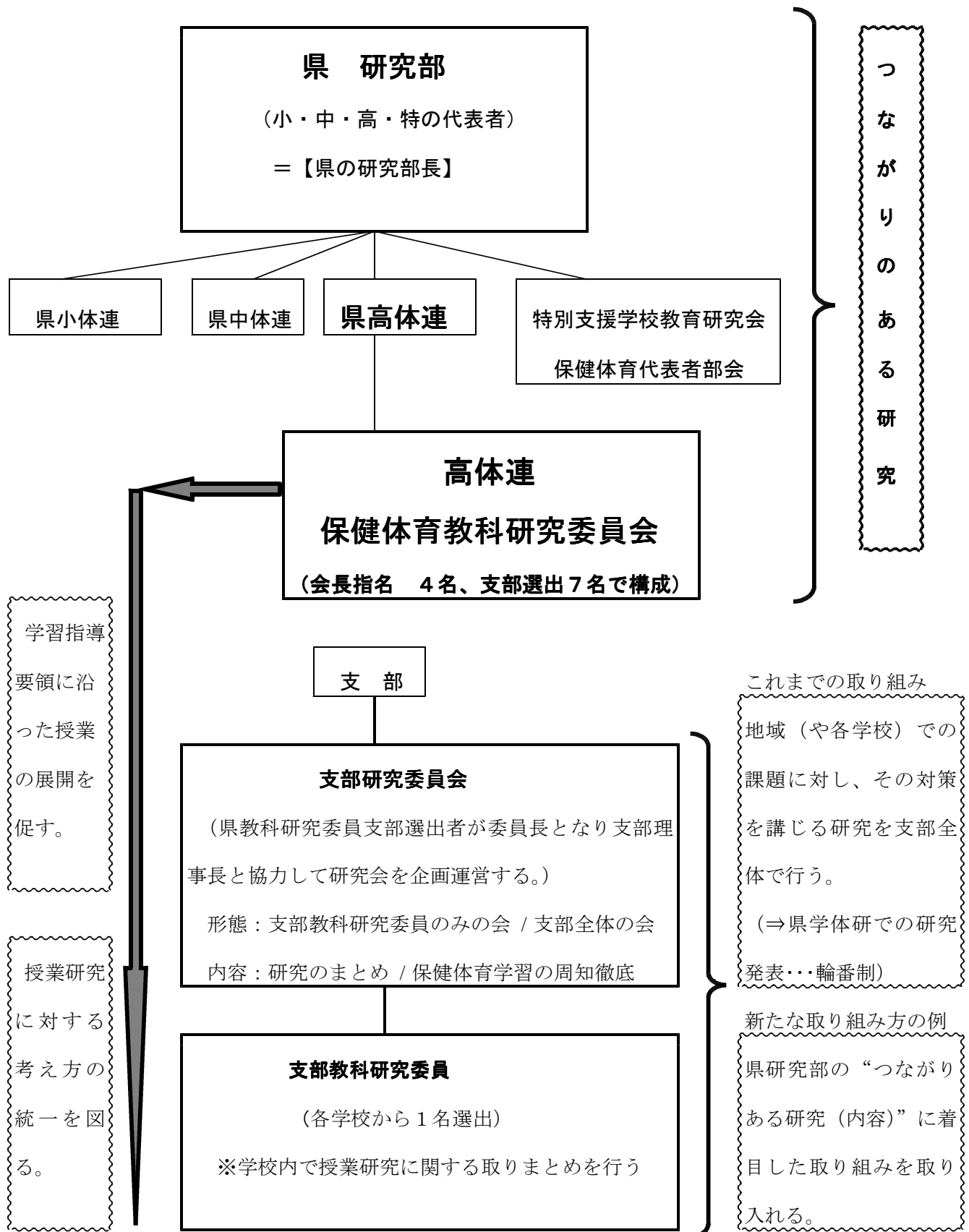


【高体連 教科研究委員会】 (案)



※体力向上については、種目の中で身に付けるものとし、記録の向上だけを目指す研究にならないようにする。(技能だけに偏らないようにする)

つながりのある学習について

(1) 基本方針

宮崎県学校体育研究発表大会では、本研究会の趣旨を踏まえ、児童生徒の発達段階に応じた望ましい体育学習のあり方について、以下のような共通視点を持ち、研究を推進する。

- ア 生涯スポーツを志向し、生きる力の育成を目指した学校体育の在り方を研究推進する。
- イ 研究にあたっては、各校種の研究活動を推進すると共に、小・中・高合同研究会を組織し県学体研研究部と連携して『つながりのある学習』の研究推進を図る。

(2) 『つながりのある学習』の基本的な考え方

- ア 児童生徒に、生涯にわたりスポーツを生活の中に積極的に取り入れることができる能力や態度を培っていくためには、小学校・中学校・高等学校の12年間の体育科学習指導の計画的な指導が求められる。
そこで、日常から運動に親しむ児童生徒を育てる体育学習の確立を目指して、小学校・中学校・高等学校の『つながりのある学習』の研究が必要である。
- イ 『つながりのある学習』における、“つながり”は、単に教材や運動領域を揃えることによるつながりではない。
「技能」「関心意欲態度」「知識、思考・判断」といったそれぞれの学習内容を確実に身に付けさせるために、「児童生徒の発達段階に応じて、指導者がどのような基本的考えを持ち、授業に臨まなければならないか。」というつながりを理解し、発展的な学習を構築するための基盤となるものである。